

平成 22 年度
全国私立中学高等学校
私立学校専門研修会・次世代リーダー育成部会
【報告書】

主催 財団法人日本私学教育研究所 後援 日本私立中学高等学校連合会

***** 研究のねらい *****

私立学校の未来を担うリーダーの資質能力とその育成

一時代を生き抜く私学の挑戦と戦略、想いを語る一

少子化や経済不況、揺れ動く教育政策、移ろう人々の価値観やニーズの影響などにより、学校経営環境が著しく変化
する中、私立学校が未来永劫的に存続・発展していくことは、社会的な使命でもある。このような厳しい状況下で、学
校経営者には「変化を的確に読み取り柔軟に対応する能力」「的確な決断を下すための知識」が求められており、将来
的に学校経営の舵取りを任される経営後継者となるリーダーの役割と責任はその重さを増している。

本部会では、自校の建学の精神、歴史を深く理解した上で、これからの時代を見据え、将来の私学の経営・教学を担
う後継者・リーダーとして、自校と自身の理想の将来像を描き出すための考え方や視点を学び、その実現に向けて教職
員と連携・協調しながら自律的に行動するために必要となる様々な知識やスキルを習得することを目指して、現職の理
事長・校長等が理想や現実、夢と希望を語り、その経験から得られた教訓などを次世代の私学人に伝えるとともに、私
学関係者のネットワークづくりや情報交換の場とする。

主な研修内容として、私学を取り巻く現況と学校法人及び私立学校の管理・運営に係る諸問題を中心に、「私学行
財政制度」「関係法令」「財務分析」「私学団体の役割」をはじめ、「学校改革」「人材育成(教職員資質能力・意識向
上)」「教育力(教員力)」「保護者のニーズ」などの課題を取り上げ、講演・報告・討議並びに先進的な取り組みで成果
を上げ注目を集める特色豊かな私立学校の視察を行う。

- ◆ 会 期 平成 22 年 11 月 5 日 (金)
- ◆ 会 場 アルカディア市ヶ谷(私学会館) 6 階「阿蘇」(全体会) / 7 階「琴平」(情報交換会)
〒102-0073 千代田区九段北 4-2-25 電話 03(3261)9921
学校視察…順天中学高等学校 王子キャンパス 東京都北区王子本町 1-17-13
JR・東京メトロ王子駅徒歩 3 分
新田キャンパス 東京都足立区新田 2-9-3
- ◆ 参加人員 47 名 (募集人員 50 名)
- ◆ 参加対象 A. 理事長・校長の新任者
B. 理事長・校長の候補者及び学校の中核をなす将来のリーダーを志す管理職・教員
※所属学校法人・学校の長が推薦する者
C. 新任者・候補者・リーダーを育成する現職の理事長・校長 等
- ◆ 講師・指導員 (順不同)
渡 辺 博 史 株式会社日本政策金融公庫 代表取締役副総裁、国際協力銀行 経営責任者
家 坂 友 幸 日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 私学情報室 副主幹
吉 田 晋 富士見丘中学高等学校 理事長・校長
長 塚 篤 夫 順天中学高等学校 校長
- ◆ 専門委員・客員研究員・指導員 (順不同)
木 内 秀 樹 東京成徳大学中学高等学校 校長
近 藤 彰 郎 八雲学園中学高等学校 理事長・校長
山 中 幸 平 学校法人山中学園 理事長
徳 野 光 博 学校法人東福岡学園 理事長
鈴 木 秀 一 財団法人日本私学教育研究所 事務局長
- ◆ 事務担当
川 本 芳 久 財団法人日本私学教育研究所 主幹
西 沢 紀 子 財団法人日本私学教育研究所 主査

◆ 日 程

時刻	9 30	10 10	11 30	12 30	13 30	14 30	15 20	16	17		
11 月 5 日 (金)		受 付	開 会 式	講 話	講 演 Ⅰ	講 演 Ⅱ	情 報 交 換 会 (昼 食)	講 演 Ⅲ	移 動	学 校 視 察	総 括 ・ 閉 会

◆ 研修会日程・プログラム

11月5日(金) 会場：全体会 アルカディア市ヶ谷（私学会館） 6階「阿蘇」
情報交換会(昼食) 7階「琴平」

〈司会・講師等紹介〉 財団法人日本私学教育研究所 次世代リーダー育成専門委員 徳野光博
財団法人日本私学教育研究所 事務局長 鈴木秀一

09:30												
10:00		受付・資料配付										
	◆	【司会】 財団法人日本私学教育研究所 次世代リーダー育成専門委員 徳野光博										
		○開会挨拶 財団法人日本私学教育研究所 理事・次世代リーダー育成専門委員 近藤彰郎										
		○事務連絡（専門委員紹介、研修会日程・学校視察・保険案内等） 財団法人日本私学教育研究所 事務局長 鈴木秀一										
10:10	◆	講 話 演 題 講 師	「未来を拓く私学のリーダーシップ」 財団法人日本私学教育研究所 理事長 吉田 晋 日本私立中学高等学校連合会 会長					【司会・講師紹介】 徳野光博 専門委員				
11:00	◆	講 演 演 題 講 師	「私学の魂と経営戦略」 学校法人山中学園 如水館中学高等学校 理事長 山中幸平 財団法人日本私学教育研究所 副理事長					【司会・講師紹介】 徳野光博 専門委員				
11:30	◆	講 演 演 題 講 師	「私立高等学校の財務と経営 — その展望と課題 —」 日本私立学校振興・共済事業団 副主幹 家坂友幸 私学経営情報センター 私学情報室					【司会・講師紹介】 鈴木秀一 事務局長				
12:30	◆	情報交換会（昼食）										
13:30	◆	【開会アナウンス】 鈴木秀一 事務局長										
14:30	◆	講 演 演 題 講 師	「次世代リーダー論 — 国際社会が求める人材育成と教育 —」 株式会社日本政策金融公庫 代表取締役副総裁 渡辺博史 国際協力銀行 経営責任者					【司会】 鈴木秀一 事務局長 【講師紹介】 財団法人日本私学教育研究所 次世代リーダー専門委員長 木内秀樹				
15:20	◇	移動（私学会館を出発、バスにて学校視察へ）										
16:00	◆	学校視察 順天中学高等学校										
16:20		① 新田キャンパス視察 ◇校長挨拶・学校紹介 順天中学高等学校 校長 長塚篤夫 ◇キャンパス視察（スクールステイ施設等）										
16:55		② 王子キャンパスへ移動										
17:00		③ 王子キャンパス視察										
	◆	総括・閉会 [順天中学高等学校 王子キャンパス]										
		1. 総括 財団法人日本私学教育研究所 次世代リーダー育成専門委員長 木内秀樹 2. 閉会										
		《講師・専門委員控室》… 7階「鳥海」										

平成 22 年度 全国私立中学高等学校 私立学校専門研修会・次世代リーダー育成部会 【報告】

『私立学校の未来を担うリーダーの資質能力とその育成』をテーマに
11月5日(金)・アルカディア市ヶ谷及び順天中学高等学校で開催
全国の私立中学高校47名の理事長・校長の新任者、副理事長・副校長・教頭らが研鑽を積む

財団法人日本私学教育研究所(吉田晋理事長、中川武夫所長)は11月5日(金)、東京・アルカディア市ヶ谷(私学会館)及び順天中学高等学校において、全国の私立中学高等学校を対象に「私立学校専門研修会・次世代リーダー育成部会」(木内秀樹専門委員長)を開催し、22都道府県から47名の新任の理事長・校長や副理事長・副校長・教頭ら将来のリーダーを志す候補者、ニューリーダーの育成を目指す管理職等が参加した。研究目標は、「私立学校の未来を担うリーダーの資質能力とその育成」で、厳しい経営環境下の時代を生き抜くための私学の挑戦と戦略、私学人としての経験と想いを、現職の私学のトップリーダー達が次世代の私学人に伝えるとともに、先進的な取り組みで注目される私立学校の視察等をおして、私学関係者の情報交換とネットワークづくりを促進する場とすることをねらいとしている。

近藤章郎・日私教研理事が開会式で挨拶

～次世代リーダーには私学全体の質的向上を考える広い視野とネットワークを～

私学は創立以来困難な時代を乗り越え、社会に実績を残して来た。その時代に自ら物事に取り組んで来た人々の体験談を聞くことは、リーダーにとってエネルギーとなる。「私学全体の為に汗をかいてはどうか」と私学の先達に請われ東京私立中高協会の職責に関わることとなったが、私学助成予算獲得や公私協等で厚い壁にぶつかり、挫けそうな時、先輩方から私学人としての生き様を学び、何の為に頑張るのか示唆を頂いたのは何物にも代え難い経験となった。我々は今の時代のことだけでなく、孫子・曾孫の代まで私学が続くことを重視すべきだ。次世代リーダーは、自校の発展だけではなく、私学全体を考えなければ、個々の学校も良くなるはならないことを念頭にさらなる質的向上の為に視野を拡げてほしい。文部科学省や都道府県行政との関わり方もリーダーには重要なポイントだ。行政の言われた通りにするのはではなく、是非を明言し、日本の教育という大枠の中で、会議や折衝等あらゆる機会と人のつながりを駆使して、さまざまな形で発信し、私学の方向性を打ち出すべきだ。私学が守られることで日本の教育が良くなっていく。一校ずつが改革に励み、リーダーとして個人的な財産となる横と縦のつながりを育てていけば、私学は磐石となる。本部会で次世代リーダーが幅広い物の考え方を学びネットワークを築き上げるよう期待している。



【開会式】東京私学のリーダー 近藤章郎・日私教研理事
(八雲学園中学高等学校理事長・校長)



【講話】吉田晋・日私教研理事長によるリーダーシップ論
(富士見丘中学高等学校理事長・校長)

吉田晋・日私教研理事長が語る

“未来を拓く私学のリーダーの資質と条件” と “人づくり” そして“仲間”

高校で約30%、中学校で7%にも満たないシェアの私学が国や都道府県に物を申せるのは、全体の力があり、各私学の意見集約に努める人材がいるからだ。一人では何もできず、大切なのは人・仲間だ。私学全体の振興発展に心を砕くことなしに各私学の明るい未来はなく、日本の教育も良くなるはならない。その重要な鍵となるのは、各私学が力を合わせることで、私学と日本の教育を想い、共に私学振興に努める信頼できる仲間づくりだ。一温故知新一この厳しい社会・経済情勢下で国・政治家はもとより私学も原点に立ち返るべきだ。我々は、創立者が私財を投げ打ち寄附行為によって学校を作った揺るぎない原点に立ち返った上で、先達が建学の精神に基づき築き上げた教育を拡げ発展させていくことが必要だ。相手の立場にたち、人の心を育て、しっかり考え主張できる人を育てるのが私学の教育だ。教育者・私学のリーダーの要件は、明るく、熱意と愛情をもって生徒と教員を育て、力強く先導することだ。教員が建学の精神に基づく教育方針に納得し従わなければ生徒に迷惑がかかる。私学の教員は企業論理で評価できない。大学進学実績よりも生徒が学校を巣立ち数十年後に立派な人間に育ったか、その時に彼らは母校の先生をどう思うかが肝要だ。いずれ理事長・校長となり方針を決めた時に大切なのは、教員を如何に説得し、何処まで覚悟できるかである。「人」という財産を受け継ぎ、さらに広げていきたい。私学は学校毎に異なるとは言っても、私学と教育に対する想いは共通である。一層の私学振興に向けて私学は互いに手を携え、胸襟を開き、私学人の輪を拡げ、信頼できる仲間とネットワークづくりに励まされたい。次世代リーダーには、各私学及び都道府県私学協会・中高連・日私教研を支え、私学全体の振興に寄与してほしい。

**山中幸平・日私教研副理事長が歴史から紐解く
私学人の魂、将来の経営者の心構えと戦略、より良い教育を担う私学の公共性と自主性**

我が国が方向性を見失い、閉塞感に覆われ先行き不透明な社会に国民が夢を持てなくなったのは、戦後教育の総決算と言える。歴史転換期の背景には必ず私学が存在する。今の私学の原点は、吉田松陰、緒方洪庵、福澤諭吉ら維新志士を輩出した幕末私塾だ。バブル崩壊後、顧客ニーズ・満足度に迎合する市場競争原理が私学を蝕み、心の教育が失われた日本は低迷、国家百年の大計たる教育を今一度作り直す時を迎えた。共通の経営戦略として、生徒が創立者を敬い建学の精神を尊重できるよう、私学は原点に立ち返り、建学の精神を具現した教育理念を明文化しバイブルとしてまとめ、校長は教育方針に掲げる。トップが命懸け・没我の精神で責任を取る覚悟で臨めば教員は共鳴する同志となる。私立学校振興助成法によって補助金を得る迄の道程は険しく、憲法第 89 条論議の中で、助成の為に私学は公の支配に属する教育を行うと認めさせる一方で自主性確保の為に並々ならぬ努力をされた私学人の葛藤があった。経営の窮状を救う為の私学助成、補助は受けても私学の魂を失わず自主性を守る為に先人は策を講じ、一項目法案逐条審議に努めた私立学校法には公の権限行使が私学に及ばぬよう歯止めが工夫された。所轄庁の監督指導権限で言えば学校教育法第 14 条を私学適用除外とする私立学校法第 5 条によって自主性・公共性は担保される。文部科学省・都道府県に対して私学は理想と描く国家・社会に有為な人材を育むべく崇高な奉仕活動を行うと気概を持ち折衝すべきだ。学校経営の根幹に関わるとは言え私学助成の為に魂を売っては存在意義を失う。命を投げ打つ覚悟で借財し私学を興した創立者の魂に鑑みて、大都市圏だけでなく地方私学もより良い教育に意識を高く持つことだ。リーダーは、学校教育法、私立学校法、私立学校振興助成法の中に私学の先人の苦勞と守るべき魂を再確認されたい。



【講演Ⅰ】山中幸平・日私教研副理事長
(学校法人山中学園理事長)



【講演Ⅱ】家坂友幸 日本私立学校振興・共済事業団副主幹

**家坂友幸 日本私立学校振興・共済事業団副主幹は
私学の財務と経営の課題と展望を解説、改革のポイントは5つのキーワード**

時代はリーダーを求めている。15歳人口が減り生徒数が伸び悩む中で公立高校無償化等厳しい環境下では、私立高校はより強く特色を打ち出し、より良い教育を生徒・保護者に供する魅力ある学校づくりに励むべきだ。トップに財務の知識が必要なのは経営と教育の改革・改善を図る上で財務の目線があれば学校は劇的に変わるからだ。トップが意識を変えれば学校経営は大きく変わる。経験や勘で乗り切る時代を過ぎ、これからのトップはマルチタスク型で、経営と教育の現状をしっかりと把握した上で、建学の精神に根ざした経営理念・ビジョンを具現化する力を付けてほしい。その鍵は数字を見る力だ。夢を実行する強い意志を持ち、困難に遭った仲間を快く助け、潔く責任をとるのがリーダーだ。生徒数減のなだらかな7~8年の内に財政基盤強化を図り、現状分析で問題を把握し教育と財務の健全化に向け中長期計画を立てることでその先の激減期に備えられたい。中長期計画は財務・教育内容・カリキュラム改革等学校一丸で、5~10年のスパン、最低2~3年先を目途に策定し、時の情勢に応じて柔軟に見直す。経営健全化の観点から強く打ち出すべき特色は「意識改革」だ。経営分析、特に財務分析を行うメリットとしては、経営結果を数値で捉えることによって見えない不安が数字に現れてくる。計画を立てずにやり過ぎると、過去の計画と経年比較し経営判断を見直す原因を掴むことができない。財務悪化の早期発見の為に現状を把握し、財務分析・環境分析により原因を把握する。学校改革・経営改善事例に頻出する重要なポイントとして5つのキーワードを挙げておく。①「トップがリーダーシップを発揮」し、②「意識改革」に努め、③「教職員が一体化」し、④教職員が一体化し皆を引っ張っていく為の「キーワードの創出」、⑤皆で「評価」する。次世代リーダーには、これらのキーワードを要に、それぞれの学校の経営改革と改善に取り組んでほしい。



【情報交換会】参加者が名刺・情報を交換して交流

国際金融のトップリーダー・渡辺博史氏

～激しく変化し複雑化の進む国際社会に通用する次代を担う学生・生徒と教育に望むこと～

国際社会に対応できる日本の若者・学生に期待するのは、①発信力、②交渉力、③語学力の3つだ。自分が何を考え、何をしたいのか伝える能力を育てるため、発信力・交渉力の教育はディベートを採り入れ中学校から進めてほしい。語学力としては「英語+αの言語」が使えるのが望ましく、それには相手の考えを知り、それがその人の国の習慣・社会・宗教等何に根ざすのか理解し寛容度を持つことが欠かせない。その前提となるのは自分達の国を知ることだ。国際化に対応した教育に望むのは、初等中等教育段階では、①国語と社会を重視する。小学校からの英語教育に必ずしも賛成ではなく、むしろ小・中学校では国語と社会の時間の使い方を工夫されたい。自分の国の歴史を知れば自分達と根ざすものが違うこともあると解る。自己認識を深め、自分の考えが解ることで、相手の考えが解る。中等教育段階では、②「技術」と「言語」の教育を融合させる。中学・高校では「算数・数学」を「英語」で授業するのが望ましい。③外国語教育では、日本人と外国籍の生徒が共に学び、教員に外国人を入れ、共通言語の英語で話す環境に置く。高等教育段階では、④国内外での共通単位制の導入促進、⑤博士号授与の格付けを高め、外国で博士号を取らせる。外国へ出る者が減り、内向き傾向の強まる若者に取って異なる社会・国へ出て行く環境を整え、日本人の視野を世界へと拡げてほしい。海外で働く日本人の傾向として日本と現地との間の調和がとれず何れか一つにしか帰属意識が持てない。企業人は自分の座標軸を持たなければ企業の都合に揺さぶられる。その為の環境を作るのは教育の課題だ。変化の早まる産業社会では十数年で専門分野は存在しなくなり失業が懸念される。特定分野に高い専門知識を持ち横も見えるT型人間から、複数の専門分野に秀でて且つ横を見る力を持つπ型人間を目指す必要がある。



司会進行役の徳野光博・次世代リーダー育成専門委員
(学校法人東福岡学園理事長)



【講演Ⅲ】国際派・渡辺博史氏が教育を語る
(日本政策金融公庫副総裁・国際協力銀行経営責任者)

順天中学高等学校を視察

～王子・新田の2キャンパスを有効活用、未来のリーダーを育むスクールステイ等先進的取り組み～

私学会館での座学プログラムを終えた参加者は、バスにて順天中学高等学校の視察へ。車内では学校紹介DVDを上映、長塚学校長が学校の沿革・概要を紹介した。足立区新田キャンパスに到着後、スクールステイ（同級生と寄宿舎で共同生活を行い自主的な学習習慣や規則正しい生活習慣を養うプログラム）宿泊施設、中学生向け自習室、運動場・体育館等を見学した。体育の授業やクラブ活動時、生徒たちはスクールバスで王子キャンパスと新田キャンパスを行き来する。続いて北区の王子キャンパスへ移動し、教室・高校生向け自習室・図書室等の施設設備を見学した。参加者からは、「都心の立地条件・限られたスペースのキャンパスを、工夫を凝らし最大限に活用していることに感心した」「学校全体の取り組みが施設の使い方に表れていて大変参考になった」「中学校1年次のスクールステイ30泊など効果的な取り組みを実践され学ぶ所が多い」「校内で参加者とすれ違う時に礼儀正しくお辞儀し元気に挨拶する生徒たちの明るさと清々しさに強く感じ入った」「自習室や図書室で熱心に勉強や読書に励む生徒たちの姿に感心した」「先生が誠実で生徒の導き方が素晴らしい」「視察に来て良かった」「非常に貴重な良い機会となった」との声が寄せられた。



日私教研・次世代リーダー育成専門委員



【学校視察】王子キャンパスを案内する
長塚篤夫・順天中学高等学校長

木内秀樹・次世代リーダー育成専門委員長が閉会式で総括
 “今日の経験を明日のネットワーク構築・仲間づくりの第一歩に”

視察を終え、順天中学高等学校王子キャンパスにおいて閉会式が行われ、木内秀樹次世代リーダー育成専門委員長は次のように研修会を総括した。

学校行事等でご多忙にもかかわらず、高い志をもって本部会に参加された皆様、視察を快く引き受けて頂いた長塚順天中学高等学校長に対して深い謝意を表したい。研修会で出会った次世代のリーダーを目指す方々、リーダーを育成する管理職の方々には、この経験を礎に、それぞれの学校と私学全体の改革発展に精進されるとともに、参加者名簿掲載の学校連絡先を活用して、各私学の間の情報交換、私学人のネットワークづくりに励まされたい。



【学校視察】 順天中学高等学校王子キャンパスに集う参加者



【閉会式】 研修会を総括する木内秀樹・次世代リーダー育成専門委員長 (東京成徳大学中学高等学校長)

次世代リーダー育成部会 参加状況

☆参加者 47 名 (内、アンケート提出40 名・提出率 85.1%)

都道府県	参加者数	アンケート提出数	都道府県	参加者数	アンケート提出数
1. 北海道	1	1	12. 愛知	1	1
2. 宮城	1	1	13. 三重	2	1
3. 栃木	1	1	14. 京都	1	1
4. 群馬	1	1	15. 兵庫	1	—
5. 千葉	1	1	16. 奈良	2	2
6. 神奈川	3	2	17. 鳥取	1	1
7. 東京	17	15	18. 島根	1	1
8. 石川	1	1	19. 広島	3	2
9. 福井	1	1	20. 香川	1	1
10. 山梨	1	1	21. 福岡	3	3
11. 静岡	2	1	22. 長崎	1	1
		計	22 都道府県	47	40

(学校視察参加者 35名)

参加者アンケート結果【概要】

問1 研修会の各プログラム・内容について

★講話／講演Ⅰ【私学団体長／学校法人理事長】

- 改めて「私学人のネットワーク」の大切さを感じた。 ○私学教育に対する情熱と「仲間」の大切さが良く分かった。
- 私学人として、政府とは“従属”する関係ではなく、“共創”する関係でなければならないという実感を強く持った。
- 私学の立場からの研究者を支援し、理論武装することも必要ではないか。
- 吉田理事長の「リーダーとしての心構え／心意気」等の内容の話に大いに感銘を受けた。
- 建学の精神をどう具体的な教育内容に反映させるか、吉田理事長の「立場が人を作る」という言葉がとても印象的だった。
- もっと建学の精神を大事にして、教員とのコミュニケーションを増やすべきだと思った。
- 私学とは全員で力を合わせ教育していく学校である。共感できる内容で、素晴らしい講話であった。
- 吉田理事長の話はざっくばらんで日常的に思い考えていることをすばりと指摘された。温故知新一まさにその通りで、過去からの流れに立った方針とその実行の大切さを再認識した。
- 温故知新一私学の原点を大事にしながらか今様に対応していくことが大切という言葉に感銘を受けた。
- 私立学校が良くなれば日本の教育が良くなること、大切なものは人であること、私立学校のために尽力できる人の育成が大切なことが参考になった。
- 学校のリーダーとしての心構えを理解でき、心に残ると共に、今後は実践して行かなければと思った。
- 最終責任者である校長と、そうではない副校長の決定的な違い、それ故の役割の違いと心得を強く考えさせられた。
- 建学の精神に立ち戻り、私学教員としての仲間作り、私学発展のための種まきとして心を育てるという点が印象に残った。
- リーダーの要件（明るく、教員を育てること）、建学の精神に基づく経営、私学の魂の大切さを自覚した。「心を育てる教育」という言葉も重要であった。
- リーダーとして力強く、明るく引っ張る必要性を感じた。私学の自主性・独自性と魂を大事にしていきたい。
- 私立学校は創立者が命懸けで作ったこと、「心」の教育を大切に、教育は私学から参考になった。
- 「校長に欠かせない資質・明るさ」「学校間の横のつながり」「トップがサラリーマンで良いのか」等、私学の果たすべき役割の確認、私学としての気概を持つ必要性と共に再確認すべき事柄と感じた。
- 自分も私学人の一人として、私学全体が盛り上がりなければ自校の発展がないこと、トップとしての振る舞いや考え方に心掛けるを最近怠っていた部分があり、初心を忘れていたことに気付かされた。
- 私学は仲間でありライバルであること、三代・四代先の世代のためにいま行わなければならないこと、常に自校のことばかり考えてはならないこと、私学全体を見通すことが必要なことなどが参考になった。
- 創立の原点に帰り、各私学が描く国家の有為な人材の育成に努めるべきという話は、教育の成果と進学実績という目先の成果に片寄っている現在の私学の流れに一つの警鐘を鳴らすものであった。
- 今ある刹那的なニーズよりも先々の日本、100年後の世の中を作り人を育成する使命という気付きを持つ機会となった。
- 後について行きたくなるような私学への熱い思いを頂いた。 ○私学人として魂に火が点いた。
- 日々の仕事に追われ、動もすれば形骸化させていた「建学の精神」「私学の魂」がハッと目を覚ました思いである。我が国本来の強みである「共同」「手を携えて」を再認識した。
- 全国私学教育研究集会長崎大会に続く内容ではあったが、本校も「原点回帰」を改革の中心に置き考えており参考になった。
- 経営者の心構えとして、決死の覚悟で責任を取るという熱意が強く伝わってきた。
- 私学らしく「建学の精神」「教育方針」—この具現化こそが各学校、本校の発展につながると思った。
- 「私学の原点」「創立・教育の原点」に立ちかえり、学校経営に当たりたいたい強く思った。
- 話に共感した。原点に立ち返ることの大切さをあらためて思った。
- 私学は建学の精神が大切なのは当然と分かっている中で、それをもっと細やかに教職員に共有させていくことが大切だと感じた。幕末期の私塾をしっかりと見直すことには同感で、多くの資料を読み直すようにしているが、ここから何を伝えるかが重要だと実感した。
- 私塾が幕末期の日本を大きく動かしたという史実には、大いに勇気づけられる。
- 私学への熱い思いが講話・講演から感じとれ、「リーダーはサラリーマンではいけない」という言葉が身を引き締めた。
- 対症療法的教育が教育をダメにしたこと、建学の精神に立ちかえり、それをバイブル化し、戦略とすべきこと、独自性が発揮できることに感銘した。
- 私立学校法について教えられた。 ○面白く、鼓吹されるのが沢山あった。 ○リーダーの自覚と責任感が高まった。
- 私学の根幹については理解できるが、具体的な経営戦略についての話が聞きたかった。
- 講演Ⅰは時間が短く、触りで終わった感がある。
- 個人的な話や感覚表明、精神論等、研修目的に照らした内容と離れている。

★講演Ⅱ【私学事業団】

- 全体的な財務分析が具体的で分かりやすい。 ○実践的な内容で非常に良かった。もっと時間を取るべきだ。
- 役立つ内容を簡潔に分かりやすく説明して貰った。 ○私学教育の成功事例が参考になる。
- 私学教育の充実のための経営感覚の重要性、中長期計画に基づく教育の必要性を学んだ。今一度見直しを図りたい。
- 「5つのキーワード」を念頭に今後校務に取り組みたい。 ○何処の私学にも一番大切な内容で、興味深く参考になった。
- 財務面・経営面のデータをとおして私学の現状と学校経営の指針が見え、参考になった。
- 生徒募集面で、現状と将来の予測の甘さの認識についてのデータが強く印象に残った。
- 募集活動に関する統計と改善方法が特に興味深く参考になった。
- 「学校の財務状況の現状分析」「生徒募集に教職員一体で取り組む」などは既に実施していることの重要性を再認識した。
- 「建学の精神・教育理念の具現化」「消費者ニーズに振り回されては私学は成り立たず」「トップは命懸け」が参考になった。
- 現状報告が多いが、参考となるアドバイスに視点を教えられ、財務把握の重要性の認識を新たに。再度話を聞きたい。
- 教育内容はもとより財務体制の健全化が急務と感じた。もう少し時間をかけてより具体的な話を聞きたかった。
- 新任校長には興味深い内容で時間が足りない。 ○1時間では短く90分位の時間をとるべきだ。
- 数字の見方、経営戦略の具体事例が参考になった。 ○財務に明るくないが、今後は違う視点で学校運営に目を向けたい。

- 自校に関する財務分析は行うことがあっても、全般的なことは余り知らず、参考になった。
- 財務知識、数字の見方の大切さをあらためて感じ、リーダーはその見極め能力を高める必要がある。
- 曖昧に把握していた問題点、本来分析すべきだが怠っていた点を把握した。アンケートの詳細データが大変参考になった。
- 財務について学ぶことでより具体的な方向性を示すことができることがよく分かった。今後より一層取り組みたい。
- 財務の大切さをあらためて感じた。財務の知識を更に身につけなければならないと実感した。
- 財務の知識が必要な理由が分かり、データに基づき分かりやすく認識できた。しっかり読み直して学校運営に活かしたい。
- 経営、特に財務のことは今まで深く考えていなかったが、健全化に意識を高くもって行きたい。
- 経営分析の力量を有する人材に欠ける小規模校で、統計解析やデータマイニングをどのように行っていくべきか知りたい。
- 自分なりにデータを見ていたのと大筋同じ見解だった。経営面の将来予測の話をもっと聞きたかった。
- 全体的に分かりやすかったが、学校へ既に配布されたアンケート結果の説明は要らないのではないか。

★情報交換会(昼食)

- 若くして跡を継がれて頑張っている方、発言の一つひとつに重みのある方々と知り合うことができ、有意義であった。
- 短時間ではあったが、良い交流ができた。○時間が短く数名しか話ができなかったが、たいへん有意義な時間であった。
- 数校の参加者と名刺・情報交換ができた。○数名の先生方と話したが、交流を図るのはなかなか難しい。
- 時間を有効活用すべきだったという反省と共に、もう少し余裕のある情報交換会を別途もって頂けると有り難い。
- 時間が短くなり、情報交換に余り時間を使えず、数名との限られた交流となり、やや残念だった。
- 簡単な自己紹介ができる時間があれば良かった。●テーブルが地区別に分けられていると良い。●会場が手狭で今一つだ。
- 形式(立食)を変えた方が良い。●昼食がやや不足した。●落ち着かず食事を十分とれなかった。もう少し余裕が必要だ。

★講演Ⅲ【企業リーダー】

- グローバル経済の現況と教育に求められるものが提示され、良く理解した。
- 短時間での世界経済の総括とそれに基づく話には説得力があり、教育の仕組み作りの必要性を感じた。
- 明解な講演、情報量の豊かさ、様々な点で刺激的な内容であった。○第一流の人の話には価値があると再認識した。
- 財政・国際情勢について興味深く解説を聞かせて頂いた。また、国際化の時代に求められる資質において、低学年で日本を理解することの重要性については同感で、今の指導方針に安心できた。算数・数学を英語で教える提案も参考になった。
- これからの人材を育てる中で、社会に直結する教育を目指すことが必要と感じた。
- 世界の金融情勢が大変分かりやすい説明だった。これからの教育には常にグローバルスタンダードの意識が必要と感じた。
- 世界の経済情勢を分かりやすく解説して貰った。日本人が内向きになりつつあることは、予想はしていたが、このような立場の専門家の方から話を聞き、このままではいけないと痛感した。異なった環境・国で学ぶことの大切さを感じている。
- 国際経済を面白く聞くと共に、将来展望の考え方、視点、これからの人材に求められる資質が参考になった。
- グローバル社会における世界観と教育者としての教育のあり方を良く理解できた。
- 複雑な国際化に対応できる子供を育てる教育とは、と考えさせられた。○経済面から見た人材育成のニーズを理解できた。
- 普段は関心の薄い世界情勢等の分かりやすい説明から、次世代を担う若人の教育とそのための能力の必要性を感じた。
- 国際経済の現状から今後の教育のあり方まで幅広く学べて良かった。
- 国際金融・経済の動向や国際化時代の資質と教育、T型からπ型人間育成へ国際化に対応した教育の大切さを理解した。
- 大変にシャープな説明で、マガジン仕立てのスライドが分かりやすく、ためになった。
- 難しい講義だが、風刺漫画で一貫して解説されたのは凄い。生徒に施すべき教育、我々が学ぶ教育ともにハードルは高い。
- 知らない分野の話を聞いて良かった。高い視点の必要性を感じた。○大変に密度の濃い話で、興味深く聞いた。
- 良い内容で倍の時間がましかった。国際経済の理解は必要である。○マクロの視点で世界経済を分かりやすく聞いた。
- 世界経済の話は大変分かりやすく興味深い。演題「国際社会が求める人材育成と教育」に関してやや印象が薄く残念だ。
- マクロ経済の視点からの一般教養として面白いが、学校の次世代リーダーをテーマとする部会講演としては物足りない。

★学校視察【順天中学高等学校】

- 学校全体の取り組みが施設の使い方に表れていて参考になった。生徒の導き方が素晴らしい。
- スクールステイは本当に素晴らしい。生徒の表情も明るく、礼儀正しく感じた。図書館で勉強する高3生は真剣だった。
- スクールステイを中学校1年生で30泊、勤務面は手当て対応等、執行部の方針を理解した取り組みは学ぶべきところだ。
- スクールステイのプログラムは非常に参考になった。○素晴らしい施設で、校舎・設備等たいへん参考になった。
- 離れたキャンパスを工夫し、スクールステイの実施等、効果の上がりやすい教育を実践されていると感心した。
- 生徒の表情が明るく豊かな点が良く、明るさの大切さを認識した。
- 生徒の挨拶が清々しく、建物の使い方も非常に参考になった。来て良かった。
- とても熱心に勉強している生徒達の姿が印象的であった。校舎の様々な所に工夫がされていて、勉強になった。
- 工夫の凝らされたキャンパス、生徒達の明るく一生懸命な眼差しに感心した。
- 学校に入った途端に生徒達が元気に挨拶してくれたのが印象的だった。施設も素晴らしい。
- 充実した施設・設備、礼儀正しい生徒達など習うべきものが多い。
- 生徒の挨拶の良さを強く感じた。様々な工夫を見ることもでき、本校の取り組みの参考にしたい。
- 良く工夫された校舎を、気分良く見学することができた。説明役の先生方に感謝したい。
- たいへんに良く工夫されている。何より順天の生徒・先生ともに誠実で素晴らしい。
- 本当に良く考えられた教育内容と施設に驚いた。学ぶべき所が非常に多くあった。
- キャンパス間の移動は大変だろうが、立派な施設で集中して勉強する生徒達の姿を見ることができた。
- 都市部学校の立地条件を活かし、限られたスペースを有効利用しており勉強になった。スクールステイ施設はユニークだ。
- 宿泊施設、王子校舎も場所を有効利用できる点等、羨ましい限りである。○全寮制の学校として参考になった。
- グラウンド確保の大変さを痛感した。やはり生徒の笑顔と元気な挨拶は我々のエネルギー源だと再認識できた。
- 場所が近くても他校へ見学に向くことは中々できることではなく、非常に良い機会であった。

問2 最も重要視（直面）する喫緊の課題・関心事について

1. 私学経営・学校運営（15名）

- 《理由》 ○世代間で価値観の異なる教師集団をどのように一つの方向に向かわせるのかが課題である。
○自分も成長途上だが、適材適所の人事運営、職員一体となった活動等、難しいものがある。
○これまでは教務・進路中心に取り組んできたため、これからの課題と考える。
- 《提案》 ○公立高校では徐々にスクールリーダーシップの議論が進み、各県の教育委員会でリーダー教育が行われているが、私学はその特性上、システムとしてのリーダーシップの力量形成が難しい状況にある。大学や研究機関との接続を通じて、このような機能を私学として持つことはできないか。

2. 教員育成（11名）

- 《理由》 ○様々な時代を切り抜けた先生や、アンテナを高く張る先生など、多様な人材を一体化させるため、彼らの心に訴える発言の例とそのための努力を伺いたい。
○教員の仕事に対する意識が多様化している。労働条件など権利主張型の教員は部活動や補修等の時間外指導に対して拒否反応を示すこともある。一方で時間外労働を自ら行う教員も少なからずいる。このような状況下でどのように教員を育てて行くべきか。
○教員の共通認識を育成すること。
○学校の要である教員を如何に育てるかは難しく関心がある。
○与えられた仕事のみ無難に行えば良いと考える教員が増え、学校の方針を細部まで理解させ難い。
○生徒にとっても本学にとっても最も基本的なところ。生徒中心の学校にとっては教員が最も大切な存在であり、その揺るぎない指導力が問われ、評価されるべきだと思う。
○本校の一番の課題は「生徒数減少」であるが、その根本原因を考えると、教員の授業力・指導力・生徒への愛情・仕事への取組姿勢の不足・低下が大きく関わっており、多くの改善点は「教員育成」に通じるため。
○教員の力を上げることで、あらゆる職務が有効に遂行され、やる気のある教員の下で生徒の成長を促進できる。
○教授力の向上、進路指導力の向上等、人材の質向上が学校選択・評価に影響するため。
○高齢化による若手教員不足。

3. 生徒募集（9名）

- 《理由》 ○公立優位から私学への入学に向かうようにするため。
○数年続く定員割れの状況下で、生徒に豊かな教育を行うためにも、定員確保と学校経営の安定は重要であり、本校における最大の課題である。
○本年度入学生が減り、来年度入試に向けて生徒募集に頭を痛めている。
○校長の基本方針がどのように関係するのか、興味がある。
○量、質の良い生徒の確保。教職員の生徒募集に対する温度差があり、中学校・塾訪問等熱意に差が出る。特に中堅教員が互いに突出することなく無難に仕事をしているように感じる。

4. 特色教育（2名）

- 《理由》 ○多くの私学が出口（進学校）やスポーツの推進等その特色化に注力しているが、これらの他に特色を出す教育に取り組んでいる情報を入手したい。

4. 私学助成（2名）

- 《理由》 ○国の基準を大きく下回っており、回復を図りたい。

4. 大学入試・高大接続（2名）

- 《理由》 ○全入時代を迎え、学生確保が大変に厳しい。

7. 高校無償化・就学支援金（1名）

- 《理由》 ○創意工夫が益々必要となり、今後より大変になるだろう私学として考えを深めていく必要性を痛感している。

7. 学校評価（1名）

- 《理由》 ○学校評価開始後数年が経過したが、方法等未だ試行錯誤の状態、より意味のある学校改善につながる学校評価のあり方は本校の課題である。

問3 来年度以降の本研修会、日私教研の研修事業等への要望・感想

- 【研修】 ○分科会形式の情報交換会があると良かった。第1回目ながら毎回参加したいような魅力的な研修会であった。
○大変勉強になった。今回のような研修を続けてほしい。
○トップからミドルにおけるリーダー研修会○私学中堅校、学力的に難しい生徒の多い学校において、生徒募集に成功し、生徒に十分な教育を実践している例等を取り上げてほしい。
○それぞれの私学が、建学の精神に基づき、どのような特色ある教育を実践しているかを知りたい。
○教員力向上の具体例 ○同僚性向上のためのワークショップをどう実施していくか。
○「数字を見る」研修会 ○ファシリテーター研修 ○スピーチ力、プレゼンテーション力、文章力修得研修
●研修コンセプトが甘く、話が講師任せのため研修内容が乏しくなっている。プログラム時間は厳守すべきだ。
- 【研究】 ○リーダーシップ論の研究
○教職員募集に関する私学の情報網
- 【中高連】 ○日本教育経営学会の「校長の専門職基準」に対する私学側からの問題提起